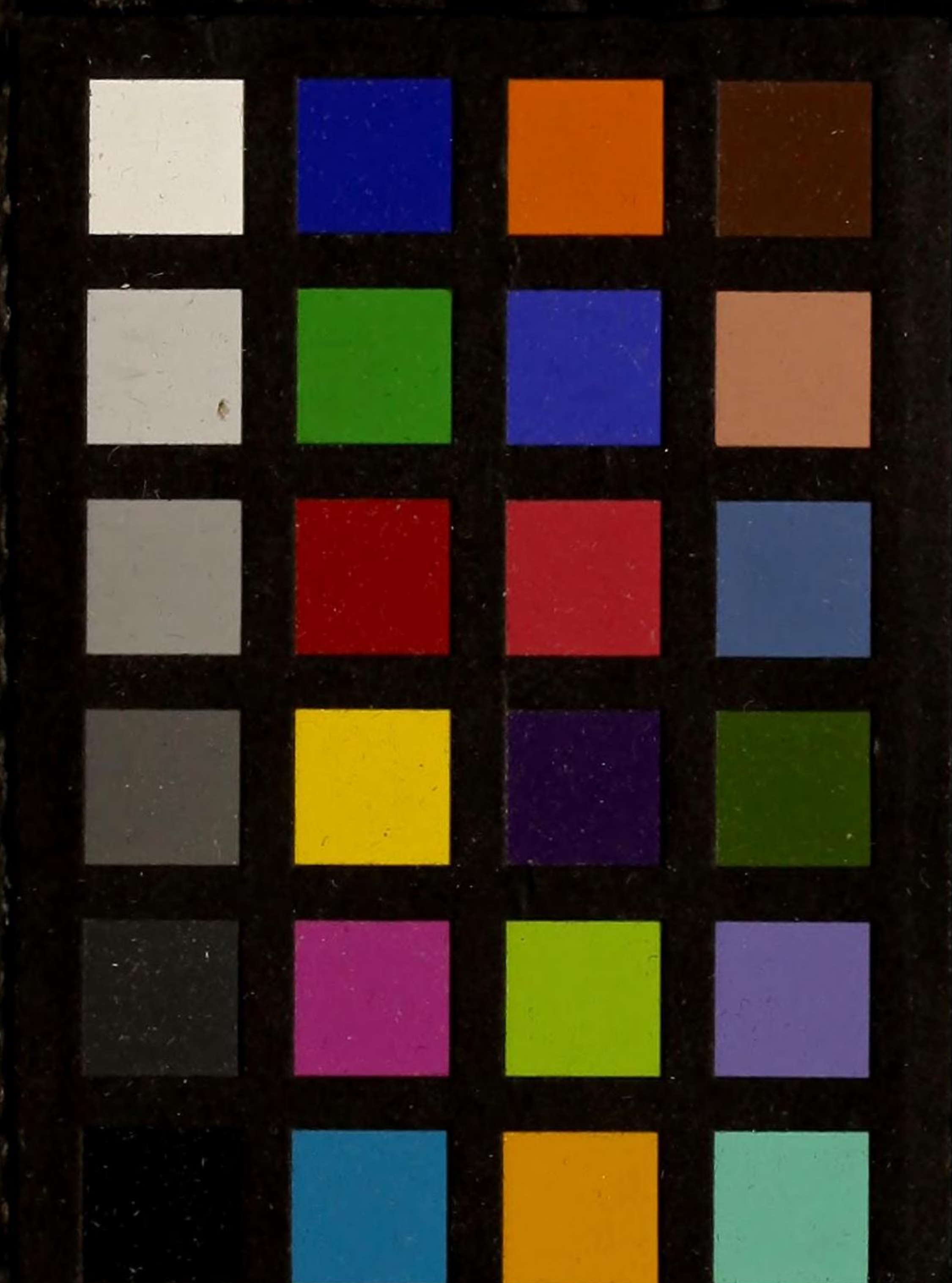


本



OREGON
RULE
CO.
U.S.A.

納本

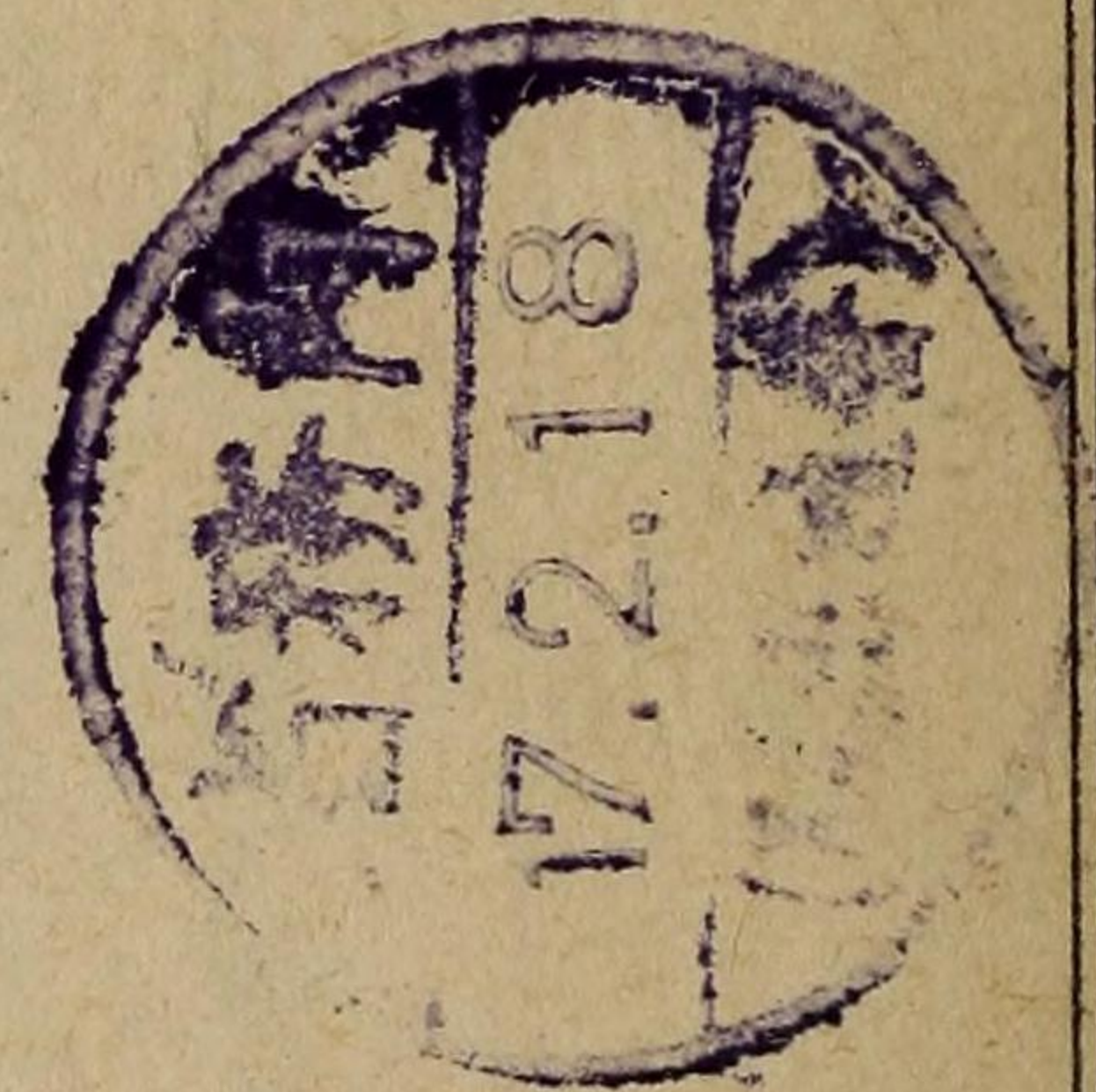
字寧
2424

緬 B 一五號 (四)

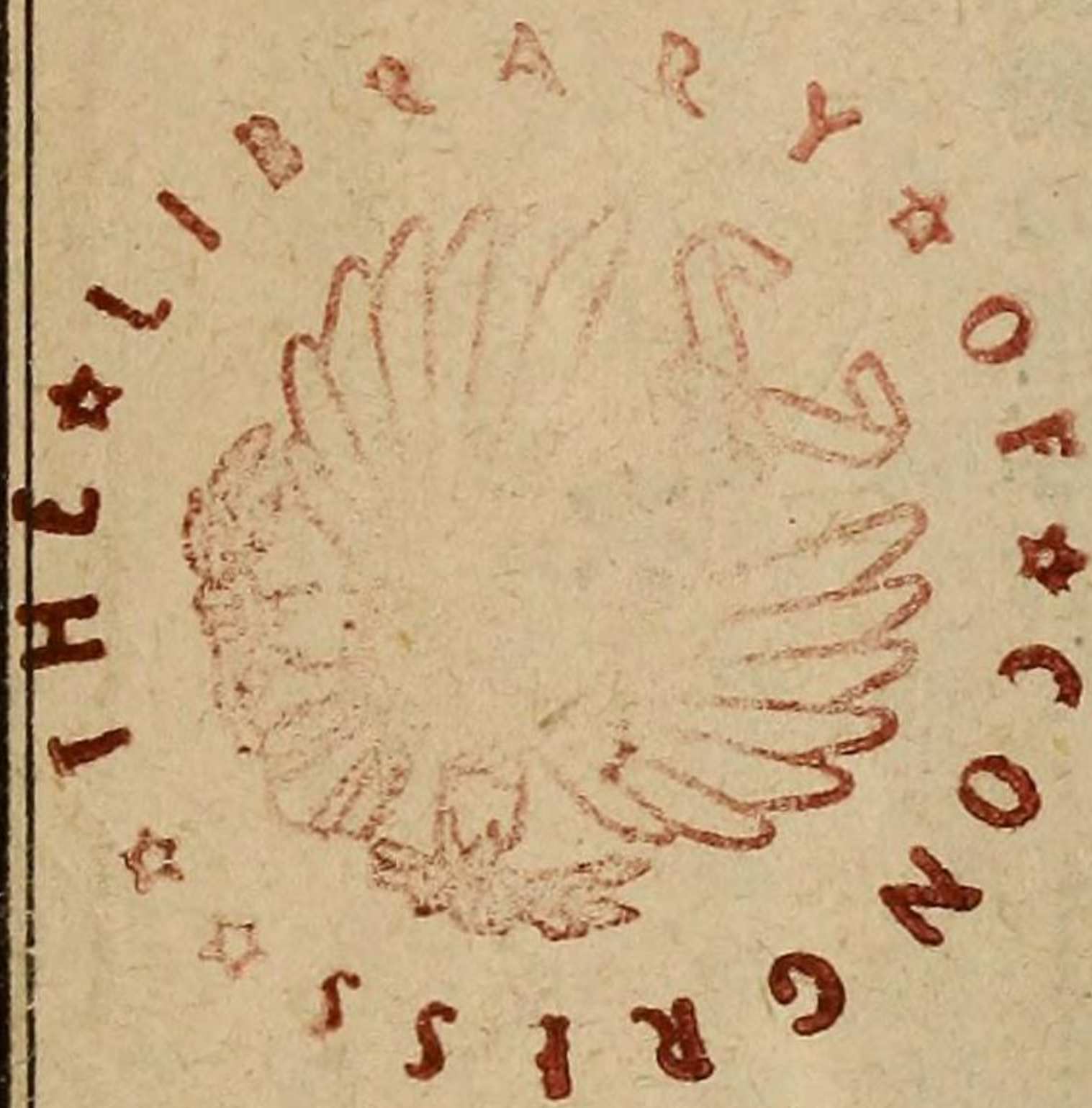
昭和十六年九月一日

緬甸に於ける人心の動向

35283D



389



緬甸研究會

西 安 寧

第 2424

永久保存

Biruma ni okeru jinshin no dōko

目 次

第一章	民族運動の指導者	一
第二章	民族運動の動向	五
第三章	民族運動に對する我が指導理念	三
第四章	獨立に對する指導案大綱	一五

17. 2. 28

第一章 民族運動の指導者

緬甸の民族運動は、甚だ深刻にして且つ眞剣である。即ち、こゝ數年來屢々獨立暴動が惹起されてゐるが、その最初は印度人労働者に對する反感に端を發し、遂に轉じて對印度の民族運動に發展した。然るに、その都度英當局は印度人を庇護する如き態度に出でた爲め、之に刺戟された結果、緬甸人の胸奥に蟠まる根強い反英感情が激發され、勢の趨く所遂に具體的な排英抗爭に變じ、三轉して緬甸民族の獨立暴動となつたものである。

由來緬甸は熱烈なる佛教國で、僧侶は常に最高指導者として尊敬され、國家的行事も民族的風習もその教義を離れては存在しない。従つて回教印度人に對しては、宗教上解き難い民族的反感を抱き、回教徒も亦その教義よりして、頗る排他的で頑固なる爲め、兩々相對立する實狀である。排英感情に至つては、更に根深いものがある。古王國緬甸が貪婪飽くなき英國武力侵略の犠牲となり、全土を吞食せられたのは、實に我が明治十八年（一八八五年）の事であつて、極めて近世に屬するのである。

それ丈けに獨立精神は未だ喪失されず、民族復興運動は頗る熾烈なものがある。彼等緬甸人の中には、祖國が英軍の鐵蹄下に蹂躪され、遂に悲慘にも滅亡の淵に沈淪した當時を、生々しく記憶してゐ

る者が、猶生存してゐるのである。祖父母により父母により、或は故老によつて、その惡逆非道なる蠻行を少年時代から聞かされ、感じ易き胸に祕かに復讐を誓つたのは、蓋し當然過ぎる當然であつて今日獨立運動の中堅をなすものは、即ち此等若き緬甸人である。

中には、父が斯る英軍のため慘殺され、母から涙と共に言ひ聞されてゐる者もある。現に囹圄に呻吟する元首相バーモ博士 (Dr. Bamaw) の如きその一人で、博士幼少の折父は排英運動の主謀者として謀殺され、孤兒として漸く成長したのである。長ずると共に亡父の遺志を思ふこと益々固く、排英獨立運動の第一線に立つ總帥として、元商工大臣ウ・テンモン等と謀り、昭和十四年七月タケン黨 (Thaken Party) の分派をバーモ黨に合流せしめ、Burma Freedom Bloc (緬甸自由聯盟) を結成し、自らその首領となつた。同聯盟は『國民統一』及び『緬甸の完全獨立』を綱領として、結成以來積極的に反英の旗幟を立て、専心獨立の實際運動に携つて來た。殊に昨年七月よりはマングレー初め各地に於て、反英遊説を試みつゝあつたところ、遂に八月英官憲の爲め逮捕され、一箇年の禁錮に處せられた。後、一旦出獄釋放されたが同日直ちに國防令により、再度逮捕拘禁せられて今日に及んでゐる。ウ・テンモン (U. Theinmong) も亦英官憲の彈壓に抗し、盛んに反英遊説を強行して居たが、遂に逮捕監禁さるゝに至つた。

其他、農民黨、タケン本黨等は今次歐洲戰勃發以來、潜行運動を主としてその獨立方策に邁進して

DS 530
B56
1942
Hajim
Japan
Luge

みたのであるが、英當局は昨年末より之が檢舉を開始し、首領株を手初めとして、重立つた獨立黨員は一網打盡、國防條令によつて拘留投獄し、その數實に五、六百名に及んでゐる。彼等は皆一身を緬甸獨立に捧げ、一千五百萬同胞の自由獲得の爲め闘つてゐるのである。斯くて死も亦恐れざる決意の存するところ、緬甸の民族運動は近く一大新展開を期待し得るに至つた。

獨立運動の第一線に起ち、緬甸自由聯盟に劣らざる活動を續けてゐるものに農民黨がある。農民黨はタラワデイ地方農民を主として、漸次下部緬甸農民に及ぼし、強力に糾合結成したものである。志士ウ・ソーテン (U. Saw Thein) は健康兎角勝れず、最近民族獨立運動の第一線を退かざるを得ざるに至り、その後を受けて結黨せられたもので、首領はウ・チヨウである。彼は本年二月、國防條令に牴觸するの故を以て逮捕拘禁せられ、目下獄中に服役中である。

ウ・ソーテンの言によれば、現統治法 (憲法) は英國が飽く迄緬甸を植民地とし、緬甸人を永久に搾取の對象にせんとする、傳統の欺瞞政策に外ならず、斷じて民意に副ふものではないとしてゐる。従つて、國民が斯る政治に干與すべきものに非らずと唱導し、議會に對しては自黨から一人の議員も送つて居ない。のみならず、從來やゝもすれば一身の榮達のみを執着して、更に祖國の將來を顧念せんとせざる、既成政黨者流に愛想をつかし、一切此等と絶縁してゐる。現首相ソー (Saw) を初め政界に今を時めく主要人物は、殆ど悉く嘗つては彼の指導を受けたものであるが、只管一身の名利榮達

にのみ汲々として、彼に背き去つてしまつた。また、バーモー博士も彼の教へを受けたことがあり、ウ・ソーテンこそ傑僧オツタマの遺鉢を承くる、現獨立運動領袖中第一の元勳と稱すべきである。

タケン黨はタラワデー暴動後、ウ・ソーテンの主義主張を綱領として、活潑潑地なる青年層を以て結成されたるもので、最も実行力に富む獨立運動の急先鋒である。タケン・トンオー、タケン・バセ
ン等之が首腦として指揮するも、タケン・バセンは目下獄中にある。同黨の最も異色ある點は、指導者がすべて三十歳前後の青年なることで、獨立のためには敢へて手段を選ばず、強力に斷行するところにある。今次歐洲戰の勃發を見るや、主として地下の潜行運動に入り、更に強烈なる計畫に移つた。聯合黨(United Party)の指導者としては、前内務大臣たるウ・バペ(U. Ba Pe)が居る。此より曩、聯合黨は黨の總裁にして且つ内閣總理大臣であつたプ・ウ(P. U)が英當局に懐柔され、剩さへその傀儡となつてゐるのは奇怪である、昨年二月中旬斷乎黨席より除名し、同内閣の内相バペを後任總裁に推戴したのである。その結果バペは内閣を去り、徐に國內統一及び獨立運動に乗り出した。斯くて同年九月プ・ウ内閣はウバペ一派の爲、下院に於て不信任案を突き付けられて退き、代つて同内閣の農相であつたソーが命を受け、現に見る如く更に強度の親英内閣を組織したのである。

その後の報告によれば、ウ・バペも最近逮捕投獄せられた由であるが、英當局は斯の如く次々に獨立運動指導者を拘禁しつゝある。併し乍ら、今日世界歴史の大變革期大修正期に際會して起てる、緬

甸人の澎湃たる獨立機運を阻止することは不可能で、畢竟するにグリートブリテン及び北部アイルランド聯合王國英吉利の、甲斐なき最後のあがきに外ならない。遮莫、ソーは親英家といふより、寧ろ極端なるオポチユニストにして、自己の榮譽のためには手段を選ばず、祖國を沽り同胞を犠牲にしても敢へて顧ざる無節操漢である。今や政府の首班にあり乍ら英當局に追従するを唯一の信條となし、益々伸張發展する我が帝國勢力に、極度に脅ゆる英國惡宣傳の代辯に之れ力めてゐる。従つて今後共我國に禍するところは多かるべく、深く此の點に留意する必要があらう。

要之、緬甸獨立のため、活躍しつゝある有力な結社は叙上の四黨にして、他は全然論するに足らぬ存在である。また、その指導者として緬甸人の輿望を擔ふ人物は、概ね前記せる人々である。

〔註 文中緬甸人名に冠するウ(ウ)は敬稱なり。〕

第二章 民族運動の動向

我が日本に對する一般緬甸人の偽らざる心情は、獨立運動指導者と僧侶、學生とを問はず、更に民衆に至るまで、非常な尊敬と親愛の念を抱いてゐることである。斯る點は一見して直ちに判明するものではないが、畢竟英當局の強壓が之を抑制してゐるからで、時機の乘すべきに至らば、必らず勃興せずんば已まぬ機運であらう。又、緬甸民族の指導上最も意を強うすることは、彼等の獨立運動が極

めて積極的にして且つ眞摯なる點であり、更にその民性よりして實行力に富んでゐることである。今や、緬甸人は世界動亂を千載一遇の好機として、一氣に年來の宿望を達成し、その獨立を完遂せんと種々畫策しつゝあり、帝國が積極的支援と誘掖さへ惜しまなかつたならば、成功疑ひなき所まで來てゐるのである。

彼等は從來英國の武力に屈服したとは言つても、その懷柔策には斷じて乗らず、逆に英國の搾取政治に益々反感を募らせてゐる。嘗つて日露戦争が勃發した當時、緬甸人は皆、東洋の一小島帝國が又一つ白人の爪牙にかけられ、忽ち自分等と同じ悲惨な運命に陥るものと信じてゐた。然るに奚ぞ計らん、亞細亞人たる此の日本が當時世界最大の陸軍國を以て誇稱せる、大ロシヤを屈服せしめたことは實に有り得べからざる一大驚異であつた。併し之よりして、白人には到底敵し得ずとする考へが覆へされ、彼等の衷に眠る民族的自覺を、強く覺醒せしめたのであつた。加之、緬甸には傑僧オツタマが居つた。彼は日本に亡命して長く大谷光瑞師の許に寄寓し、その間詳細に日本及び日本人を研究した。後、第一次歐洲大戰當初緬甸に歸り『日本』なる名著を公刊した。彼は日本が強大ロシヤに大捷せる所以は、舉國一致協力せし團結力の賜であると喝破し、緬甸人の緬甸再建のためには、唯民族を擧る協力一致あるのみと強調警告したのである。偶々當時緬甸は祖國解放運動の機運が、澎湃と燃え上りつゝあつた秋であり、而も僧侶を極度に尊敬する緬甸である。この書が強大なる反響を及ぼしたこと

は理の當然で、幾何もなくオツタマ自ら獨立の實際運動に乗出すや、彼を中心として青年僧侶翕然と相集り、遂に『佛教青年會』が結成された。

佛教青年會は現在獨立を目途として活動しつゝある。各黨の核心的勢力をなすものであつて、緬甸民族運動の母體とも稱すべきものである。僧オツタマは昭和十四年九月、六十歳を一期として惜しくも長逝したが、その烈々たる遺志は朽ちず、農民及び學生群を率ゆるウ・ソーテンこそ、彼の遺鉢を繼ぐものである。また一方、青年僧侶の活動は實際運動の中樞指導力として、益々重きを加へつゝある。

由來、緬甸獨立運動の趨勢は、大體二箇に分けて見る事が出来る。その一は、既成政黨の合同により現親英内閣を倒し、統治法を改訂して合法的に獨立を獲得せんとするものである。これは一部不平政治家や野心家が、自己の爲めにせんと策謀するところで、獨立を表看板にして内閣を乗取り、自らの野望を遂げんとするものである。従つて、之を知る一般民衆を動かす力とはなつて居らない。

その二は、タケン本黨、緬甸自由聯盟、農民黨、聯合黨及び青年僧侶團の指導する、眞摯なる反英運動で、既成政黨者流に嫌らぬ新進政治家及び思想家、宗教家達によつて支持せらるゝものである。彼等はよく民意を察し民心を捉へ、常に自ら身を挺して實際運動に没頭しつゝあつたのであるが、最近亞細亞及び歐洲情勢の急轉回に乗じ、頓に活潑なる動きを示しつゝある。

全緬甸青年僧侶層は夙くより國內統一を畫策し、昭和十四年以來屢々代表者大會を開催して、輿論

指導に努力してゐる。また、農民黨もタケン黨員等が中核となつて、眞劍に獨立の準備計畫を進めつつある様子である。同黨員は

「絶對募兵に應せず、且つ英國の對獨作戰には精神的にも物質的にも協力せず、緬甸獨自の見解を以て所信を斷行する」

ことを綱領としてゐる。昨年十一月にはトングー (Toungoo) に全國農民大會を開き、政府の施政、特に土地問題に就いて反省を促し、土地の大部分が農民の手を離れ、印度人の所有に移つて行く現状を指摘して、農民の活路を啓開すべき幾多適切有效なる決議を行つた。近年遽に農民階級の覺醒著しきものがあり、その指導に當る者は皆元氣潑瀾たる青年層で、緬甸の革命も亦、若き此等青年達の手にあることを銘記しなければならない。

現在、英當局は獨立運動の強壓に躍起となり、幾分でも反英的言動を爲す者は、理由の如何を問はず容赦なく逮捕拘禁し、既に投獄されたもの數百の多きに及んでゐる。併し彼等緬甸人は此の暴壓に些の逡巡躊躇することなく、本年一月には獄中ハンガーストライキを決行して、抗英意識を昂揚したとのことである。

滇緬公路は今尙援蔣ルートとして、物資輸送に大童となつてゐるが、緬甸民衆は初めより、斯る英國の爲にする援蔣政策には同意せず、また緬甸自體が援蔣通路となる結果、日本空軍の爆撃下に曝さ

れることを極度に反対した。従つて武器輸送に當つても、緬甸人は斷然拒否して手を出さず、爲に専ら支那人を使用してゐる實狀である。

今次の動亂はその端を亞細亞の一隅に發し、次で歐洲に飛んで遂に歐・阿を戰渦に巻き込み、將に西大陸に移らんとして戰は今や世界的規模に於ける大禍亂となつた。而して戰爭の推移と共にその性格が判然し、日本、獨逸、伊太利等を一連とする樞軸國家群が、米英舊秩序を破摧して、從來長く米英の桎梏下に呻吟しつゝあつた、弱小民族の一大解放戰なることが明瞭となつた。緬甸及び緬甸民族が絶好機到來せりと、抃舞勇躍するは蓋し當然の歸趨であらう。然るに英國は尙も執拗に惡宣傳を弄し、緬甸をして對日、對樞軸制壓戰線に驅り立て、英國防衛の具に供せんとした。昭和十四年八月、緬甸總督は『英國臣民たる緬甸民衆に告ぐ』との布告を出し、

「緬甸人は英國臣民たるの義務を遂行し、英國に忠誠を誓ふべきことを要求したのであるが、緬甸系新聞は一齊に之を默殺して掲載せず、剩さへ

「英國は弱小國が武力を以て侵略されたるを默視し得ずとて、波蘭のため自國の運命を賭して迄戰ふと稱するが、然らば緬甸に對する英國の侵略は如何、英國よ須く假面を脱げ」

「緬甸は英國の戰爭に参加することを斷然拒否する。英國は自己の爲めに戰へ。緬甸は緬甸の行くべき道を歩むべく、英國の奴隸とはなり得ぬであらう」

と戦争参加の絶対拒否を表明してゐる。

上層指導階級は、本年三月帝國の泰・佛印國境紛争調停成立以來、日本の南進に對し英國には之を抑へる實力なきことを觀取し、日本の實力行使を以てすれば、英國の亞細亞制壓ラインは必然破綻すべきものと、心中密にその時期を待望して居つた。三月極東危機説の流布された時の如き、緬甸人は民衆に至るまで聊かの動搖を示さず、寧ろ日本軍の來攻を期待し、武器さへ供給するものがあれば、何時なり共對英蜂起を爲さんとの氣勢となつた程である。之が英國の苛政より脱せんとする全緬甸人の眞情で、彼等が近々數年の間に幾回となく獨立反亂を繰返し、數多同胞の血を犠牲に供しながら、その都度怨を吞んで鎮壓され、失敗の已むなきに至つたのも、一に對抗すべき武器なきに歸因することを、彼等自身最もよく知つてゐるのである。

現にビルマルト輸送の重慶援助武器に著目し、旗擧げの際には、警備の薄い山岳地帯に於て掠奪すべき具體計畫も樹てられてゐる。從來、獨立運動指導者は、一般緬甸人の募兵に應ずることを拒否せしめ來つたのであるが、最近は進んで徵兵に應募せしむる状態である。即ち英國兵として一定の裝備を施され、武器を給さるゝことを知つてゐるからである。然るに英官憲は早くも此の新動向を窺知し、緬甸兵を多く徵用することを好まず、その上、武器取締りを嚴重にして拳銃は勿論、刀身五吋のナイフさへ取上ぐる始末で、斯る苦肉の畫策も仲々成功しない。従つて現状の儘に於て獨立蜂起する

場合は、十年前の彼のタラワデー反亂の如く、武器を英兵より掠奪する以外ないのである。先般來新聞の報導する所によると、英國は緬甸、馬來に益々兵力を増強し、泰國境一帶に印度兵、濠洲兵を増派して之を威嚇し、又英蔣軍事同盟を結んで、重慶の特別部隊を緬甸に進駐せしめたとのことである。併し乍ら、我が機を逸せざる措置により、皇軍サイゴン上陸の報を手にして、緬甸人の狂喜は如何ばかりか、日本に信倚して民族獨立を完成せんとする信念は、更に愈々深まりつゝあるであらう。

彼等は今變貌せんとする、渾圓球上の一大激動期に當面して、將に斷乎起ち上らんとしてゐる。一民族としての崇高なる闘を戦ひつゝ、絶大なる期待を以て我が積極的支援を翹望してゐる。大東亞民族の獨立と共榮を理念とする日本としては、正に一千五百萬緬甸同胞の要望に應へる、絶好の活機と言はなければならぬ。而も之は直ちに大東亞全域處理の鍵鑰といふべく、宜しく雄渾無比なる大經綸を斷行し、百年の大計を樹立すべきであらう。

從來屢々行はれた獨立暴動中

一九三〇年セヤサン僧に率ゐられたタラワデー暴動

一九三八年末より翌年に亙る全國的大騷動は特筆に價する二大暴動である。共に農民、勞働者、僧侶、學生等全緬甸人を網羅する全國的大動亂で、常に僧侶及び青年層が先頭に挺身して指導したものである。此の時若し相當の武器があつたならば、一舉に獨立を遂行し得たであらう。

次に本年三月入手した情報を掲げて、民族運動最近の動きを窺ふことにする。

一、R・E・T (Rangoon Electric Tramcar Co.) のバス従業員は、昨年十月ストライキを断行したが、その調停に對する不満から、本年一月以來再びストライキに入らんとする形勢あり、彼等は英國の戦争義捐金募集を拒否する決議を行つた。

二、昨年十二月初頭、タラワデイ地方に農民による暴動が勃發した。即ち支那人、印度人に對する反感から、十二月五日農民二千蜂起し、印度人、支那人所有の商店で米、雜貨品等を掠奪中、Thouze 村及び Panzwe 村に數臺のトラックに分乗せる、警官隊が馳せつけて、漸く鎮壓するを得たのであるが、タラワデイ町を初め全州に亙つて、今猶不穩の形勢を示してゐる。

三、ビルマルートの修築工事に従事する、China Burma Transport Co. 雇傭の労働者數千は、昨年十二月中ストライキに入らんとする情勢あり、逸早くこの報告を接受せるタケン黨員は、更に苦力を使啖して、支那奥地向武器輸送を遮断すべく、種々の工作を爲しつゝあり。緬甸人はこの輸送に従事せぬ爲、會社は支那人、印度人等を使用してゐるが、頗る労働力の不足に悩んでゐる。

四、ベグー東方のシツタン河上に架設せる鐵橋(モールメン鐵道線)を破壊すべく、農民間に計畫中との風評あり、軍隊を派して晝夜警戒しつゝある。

五、エナンジョン油田地帯の労働者相謀り、會社に對し種々の要求を提出して、不穩の形勢を醸成

しつゝあり。尙、エナンジョンに労働者大會を開き、去る一九三八年の大ストライキを記念する爲め『ストライキデー』設定を決議した。

六、緬甸初代の國王アロンバヤの像を建設することとなり、昨年十二月十五日その定礎式を行つた。工費二萬七千留比、獨立達成の熱意を示すものである。

以上各種形式の労働爭議は、表面皆單なる爭議の如く見えるが、内實は多分に獨立を目標とする、政治的鬭争の性質を包藏するものである。斯く茲數箇月の形勢によつても、獨立機運が普く全國に漲りつゝあることを、容易に窺知し得べく、一度び點火されば燎原の火の如く擴大するであらう。

第三章 民族運動に對する我が指導理念

緬甸人は夙くより民族的に覺醒し、屢々血を以て獨立を企圖したのであるが、その都度失敗に歸して今日に至つた。最近漸くその曙光を見る情勢となつたのは、一に這次世界動亂に際會して、老大英國が崩壞の關頭に立つに至つたからである。併し未だ獨立の美果を齎し得ないのは、幾多先人の犠牲に對し、寔に氣の毒に堪へぬところである。

從來數度の暴動が成功し得なかつた理由は、左の五項目に要約することが出来る。

即ち

一 英國の存在は緬甸民族にとつて餘りに強大であつたこと
二 全緬甸民衆を打つて一丸とし、獨立運動に集注せしめ得る底の、卓拔な指導力を有する人傑の
出でなかつたこと

三 緬甸人は一般に資力之しく、且つ武器入手の困難なる環境にあること

四 英國の老獪なる政治工作に操られ來つたこと

五 國際情勢が未だ緬甸に好機を惠まなかつたこと

等であるが、今や世界の大禍亂は緬甸をして、半世紀餘に互る宿望を遂げしむべき、絶好の機會を與へつゝある。従つて民心は自ら統一せられ、正に虎視眈々たる現狀であるが、目下英當局のとれる防衛措置に鑑みる時、緬甸人独自の力のみを以てしては、目的達成に稍々覺束なきを思はしむる。

茲に緬甸として信倚すべきは日本以外になく、日本亦その傳統精神たる八紘爲宇の大理想よりするも、大東亞の指導者たり安定勢力たる使命よりするも、將又、大東亞共榮圈確立の國是よりするも、進んで此の窮鳥を庇護支援すべきであらう。而してその指導理念は、前記要項を檢討することにより自ら演釋され來るべく、英國乃至米國が如何なる阻止策を以て臨むとも、敢へて憚る必要はない。

左に、少しく之に就いて記述することにする。

一 緬甸民族の獨立自決を根本方針とし、日本が侵略征服するといふが如き感を抱かしめざること

二 民衆を指導するに足る志操高邁なる人物を厳選し、將來大東亞圈の共榮を分擔すべき同胞として教導すること

三 獨立運動各黨派を大同團結せしめ、日本指導の下に輿論を統一強化すること

四 親英の現ソ一内閣を解散せしめ、新に親日政府を組織せしむ

五 武器及び資金を供給し、一先づ國內を混亂に陥らしめ、皇軍之に策應して緬甸に進軍して、積極的に獨立を援助すること

六 緬甸が英國の羈絆を破却し、獨立を宣言すると同時に、日本は全幅的に支持する旨を聲明し、一時の情勢如何なる變化を呈するとも、不介入といふが如き意志表示を絶対に爲さざること

第四章 獨立に對する指導案大綱

英當局の反英行動に對する警戒と彈壓は、對樞軸作戰の頽勢と共に益々嚴しく、就中、印刷物の搬出と日本人の入國を、絶対に禁止してゐる現狀に於ては、民族運動を指導することも、獨立工作を推進せしむることも、極めて至難と言はねばならない。茲に唯一の方策は、緬甸人中の重要人物を脱出せしめて日本に招致し、革命破壊工作を傳授指導して、之をして當らしむることである。萬一適當なる緬甸要人を招致し得ない場合は、日本独自の獨立援助實行案を企畫準備し置く必要があらう。その

詳細なる計畫は本文に省略するが、實際行動に出づる時機は、慎重なる研究を緊要とする。大體の之が目標として考へらるゝところは、左記の如くである。

- 一 支那事變處理及び南方問題解決上、可及的速かなるを得策とすること
- 二 行動は季節の關係上、十月以降翌年三月までの乾季を選ぶべきこと
- 三 歐洲戦局の趨勢に乘じ之と睨み合せて時機を決定すべく、遅く共昭和十七年六月迄には諸般の準備を完了すること

次いで、獨立運動その緒に就き、所期の成果を擧げるに従ひ大體次の措置を要する。

- 一 擧兵と同時に獨立を宣言す
- 二 武力行動の目的略々達成せば、獨立臨時政府を樹立せしむ
- 三 臨時政府樹立要項及び國內建設上の具體的處置は、招致せる緬甸人と共に豫め研究準備せる企畫案に基き、實行に移すべきものとす

- | | | |
|---------------|----------|------------|
| (1) 獨立宣言文 | (2) 奠都計畫 | (3) 憲法の起草 |
| (4) 獨立臨時政府の機構 | (5) 施政方針 | (6) 應急事業計畫 |
| (7) 日緬協定の締結 | | |

以上の外、獨立後に於ける内政改革の具體案に就いては『政治對策』として周到に立案さるべきものである。(終)

昭和十七年二月十五日印刷
昭和十七年二月廿五日發行

非賣品

編輯兼
發行人 雜賀博愛

印刷人 福井安久太
芝區西久保巴町七十番地

印刷所 安久社
芝區西久保巴町七十番地

東京市中野區上高田一ノ八〇

發行所 緬甸研究會
振替口座東京一二三、九一一番

LIBRARY OF CONGRESS



0 020 208 429 1

#1006

Or 9

1804/2



Japan	2/14/13	265	 birumaniokeruin008800	00202084291
-------	---------	-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------